

地域教育
情報紙(27年度)
第3号

颯とあそび

平成27年9月7日発行
《担当》 富士・東部教育事務所
地域教育支援スタッフ
小林誠二・渡邊 聡・小俣義一

『颯とあそび』は、富士・東部地域教育の様々な活動、情報等を掲載し、

地域教育の「横の連携」と「縦の接続」

を目指す富士・東部教育事務所が発行する情報紙です。1年に6回程度の発行を予定しています。

【 カラー版は、富士・東部教育事務所のHP からご覧いただけます。

URL : <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/index.html> 】

富士・東部教育事務所地域教育支援スタッフでは、

(1) 家庭、学校、地域の連携による地域ぐるみの教育活動の活性化を図る。

(2) 地域における体験活動・ボランティア活動の環境を整備し、地域教育力の活性化を図る。

を目標に掲げ、地域の教育力を高めるためのコーディネーターとして、家庭・学校・地域社会がお互いに連携を深め、青少年の健全育成のため活動しております。

夏休みのわくわく体験特集

動物・昆虫とのふれあい、オリジナルの楽器づくりやディズニーソングを歌って楽しもう!!

帝京科学大学 夏休み親子教室

帝京科学大学(沖永荘八学長)と北都留地域教育推進連絡協議会(会長:江口英雄上野原市長)は、7月26日(日)に第12回「夏休み親子教室」を帝京科学大学上野原キャンパスを中心に開催しました。

当日は昨年の参加者を大きく上回る、幼児・児童116名、保護者74名、のべ190名が参加。同大学の花園先生・馬場先生・榭原先生・大海先生が中心となり、各研究室に所属する学生および、AAE(動物介在教育研究会)、ドッグトレーナー研究部、動物飼育研究部等の学生サークルのスタッフが、6コース9講座の運営にあたりました。日中は35を越える猛暑ではありましたが、参加者は「生き物を知ろう」「自然観察」「カリグラフィーでカードを作ろう」「ディズニーソングを英語で歌おう」「手作り楽器を作ろう」「科学に親しもう」

「音楽を楽しもう」の中から事前に申し込んだ各講座において、観察したり、体験したりして、科学や自然、音楽のことについて楽しく学びました。

参加者からは「身近な生き物の生態や、なかなかふれあえない生き物と出会えてとても楽しく勉強になりました。」「夜の自然探検で、お兄さんとお姉さんたちが虫のことを詳しく教えてくれたから虫がさわられるようになりました。そして、虫が大好きになりました。ミッションが全クリアできてうれしかったです。」等の感想が寄せられ、普段はなかなか体験できない各講座を楽しむとともに、親子の絆を深めていたようです。



ものづくりのおもしろさを体感!! No.1

富士北稜高校 親子カルチャー教室

富士北稜高等学校（宮下仁校長）と南都留地域教育推進連絡協議会（渡邊綱男会長）は、7月25日（土）に第13回「親子カルチャー教室」を開催しました。今年は「パソコンを使ってオリジナルカレンダーをつくろう」「ペットボトルでつくる光ファイバーアートをつくろう」「鋳物で表札をつくろう」の3つの講座に児童・保護者合わせて29組58名が参加しました。

当日は24名の高校生がミニ先生となって小学生を指導。ミニ先生の親切で丁寧な教え方に、参加者は親子で楽しむはじめての「ものづくり」に熱中できたようです。

参加した児童からは、「カッターで発砲スチロールを切るのがむずかしかったけど、ちゃんと最後にはできてうれしかった。」

「やさしく教えてくれた！たくさんほめてくれた！わかりやすくておもしろかったです。」との感想がありました。また、「普段体験できないような事ができ、親子共々、楽しく時間を過ごせました。生徒さんが熱心に指導してくれて、気持ちよかったです。」「高校の校舎で、普段ふれあうことのない高校生と一緒にものづくりをすることができて、息子にとっては夏休みのよい思い出になったと思います。」と、保護者からも大変好評でした。



ものづくりのおもしろさを体感!! No.2

谷村工業高校・都留興譲館高校 親子ものづくり教室

谷村工業高等学校（菊池敏彦校長）・都留興譲館高等学校（上小澤仁志校長）と南都留地域教育推進連絡協議会は、8月8日（土）に第12回「親子ものづくり教室」を開催しました。

今年は谷村工業高等学校としては最後の「親子ものづくり教室」となります。事前の申込みでは、「ソーラーカーの製作」「電子制御ロボカーの製作」「メタルプレートの製作」「レジンクラフトの製作および走査型電子顕微鏡の観察」の4つの講座に31組62名の応募がありましたが、今年も応募者多数のため、抽選により当日は20組40名が参加しました。18名の高校生のミニ先生も親

切・丁寧に子どもたちを指導。難しい作業は保護者の助けを得ながら、みんな素晴らしい作品を仕上げました。

参加した小学生や保護者からは、「普段できないこともできたし、家族と親睦を深められた。」「指導する生徒さんがとても親切・丁寧に教えてくれて、高校生とふれあえるいい機会でもありました。これからも続けていってもらえたら…と思います。」などの感想が寄せられました。『ものづくり』のむずかしさやおもしろさを体験し、『ものづくり』への興味関心が高まったようです。



八丈島・でっかい体験 2015

フロンティア・アドベンチャー やまなし少年海洋道中

「心の豊かさやたくましさを育むことを目指して、友情・連帯・奉仕・開拓・交流の精神を涵養するとともに、地域のリーダーとしての資質向上を図ること」を目的に、8月1日(土)から9日(日)の8泊9日の日程で、第28回「やまなし少年海洋道中」が実施されました。

南北都留地区からは、抽選で選ばれた男女6名の中学生が参加しました。漁船クルージング・外洋の観察などの「洋上体験」、キャンプ生活・サバイバル踏破などの「自然体験」、八丈島の小中学生や地元の方々との「交流体験」、「自ら企画する体験」など、大自然の中で日常生活では味わうことが出来ない、数え切れない貴重な体験をしてきました。山梨とは違った自然環境の中で、県内各地から集まった50名の仲間と過ごした日々は、きっと人生の宝物となったことでしょう。

また、8月19日(水)には県立八ヶ岳少年自然の家において事後研修

を行うとともに、八丈島で親交を深めた小中学生と再会。今回は山梨の中学生が八丈島の小中学生を歓迎し、交流を深めました。この交流活動をもって、今年度の「やまなし海洋道中」は無事終了しました。来年も、多くの中学生が参加されるのを期待しています。



ゆずりはらの大自然の中で、小中学生の交流深まる

南都留地区ジュニアリーダー合同キャンプ

夏季休業中の8月11日(火)12日(水)に、南都留管内の小中学生を対象にした「ジュニアリーダー合同キャンプ」(主催 管内8市町村教育委員会・富士東部教育事務所)が山梨県立ゆずりはら青少年自然の里にて開催されました。昨年は、台風のため中止となってしまいましたが、今年は参加者総数54人がゆずりはらの大自然の中で2日間を過ごしました。

1日目は、アイスブレイクで仲間との懇親を図ったあと、宿舎周辺の山々をめぐるウォークラリーで班内の協力と結束を深めました。2日目は、川遊びで水に親しみ、飯盒炊さんにて昼食(カレー)をとり、クラフト・工作を行いました。中学生のリーダーシップのもと、豊かな体験活動を通して仲間との交流が深まるとともに、相手を思いやる気持ちや自然を愛する気持ちが育まれた2日間でした。



シオジの森を楽しもう

シオジ森の学校

鳥のさえずりを聴く会・夏休み木工教室



シオジ森の学校(小俣正次校長)では、5月30日(土)に「シオジの森 鳥のさえずりを聴く会」を開催。参加者は親子連れが27名、スタッフ5名の合計32名でした。当日は天候に恵まれ、大峠では朝食をとりながらウグイスやヒガワなどのさえずりを聴き、シオジの森ではオオルリやミソサザイのさえずりを楽しみました。下山途中では、ニホンザルの



親子に出会ったり、ミヤマクワガタを捕まえたりと参加した子ども達は大喜びでした。

また、8月15日(土)には大月市真木の就労支援事業所「めばえ」内で、「夏休み木工教室」を開催。当日はスタッフを含め23名が参加しました。5月に実施した間伐と枝打ち体験で集めた木材を使って、シオジ材のペンダント、杉の巣箱、間伐材のテーブルなどを作製。最初は工具をうまく使えなかった子ども達も、スタッフの指導により世界にただ一つの作品を作り上げることができました。



《これからの「シオジ森の学校」の主な開講講座の予定》

1. 10月3日(土)・4日(日) 「ロケットストーブ作り&ランチ」
2. 10月24日(土) 「シオジの苗を育てよう」
3. 11月上旬 「シオジの森で虫探しをしよう」

参加者は随時受け付けています
 申し込み・問い合わせ先
 シオジ森の学校事務局
 大月市大月2-12-29(誠実堂内)
 TEL 0554-22-2775

第33回 吉田空襲展

～戦後70年 語り継ごう吉田空襲の歴史 平和への願い～

今は平和な吉田の空に、かつて戦うための飛行機が飛び、多くの人が苦しみ、そして亡くなりました。今を生きる私たちは、そのことを忘れてはいけません。

吉田空襲の事実を伝えるとともに、戦争や現代社会の課題を児童生徒・地域に広め、平和実践の交流の場とすることを目的に、第33回吉田空襲展が7月24日(金)から26日(日)の3日間、富士吉田市民会館で開催されました。

「吉田空襲のパネル」「戦時中の遺品」「市内小中学生の作品と平和ポスター」「高等学校の企画展示」などの一般展示のほか、「吉田空襲フィールドワーク」「高校生による親子映画会大型紙芝居」「ことぶき勸学院のみなさんとのふれあい昔の遊びコーナー」などの特別企画を開催。また、株式会社日建 代表取締役の雨宮清さんを講師に、平和講演会も行われました。「モノづくりを通しての国際貢献」について、地雷除去を通して「豊か



で平和な大地への復興「地雷のない平和な大地」をめざして国際貢献に取り組まれている様子が紹介されました。

3日間で2600名を超える児童・生徒や保護者が来場。戦争の悲惨さや平和の尊さについて考えることができた空襲展でした。



「ヘンダーソンビル市の生徒が、日本文化を学ぶ!!」

都留興讓館高校 国際交流



「人生が^{きら}燦めいた。」これは2週間ホストファミリーを引き受けた都留興讓館高校2年生女子生徒の感想です。

平成2年度から桂高校(菊池敏彦校長)で始まった、都留市の姉妹都市・米国テネシー州ヘンダーソン市内の2つの高校との交流事業は、今年度は都留興讓館高校(上小澤仁志校長)と合同で行われました。7月6日(月)から18日(土)までの2週間、ヘンダーソンビル市の生徒12名と引率者2名が来校。谷村工業高校・桂高校・都留興讓館高校

の3校が併存する校内で郷土料理、箏曲、染色、剣道、弓道、書道や相撲など多くの日本文化を体験し、ホストスチューデントのクラスの授業に参加し、学園祭を通じて交流を楽しみました。

日本の家庭に家族の一員としてホームステイしていくうちに、お互いに打ち掛け合い、最後の日には全員が涙で別れを惜しまました。短期間ではありましたが、英語力の向上そして何よりも異文化に対する視野を開かせたことが、この交流事業の大きな成果であったことが冒頭の言葉に表されていると思います。

桂高校としては最後の国際交流事業となりましたが、今後は都留興讓館高校が引き継ぎ、さらに交流の輪を広げていこうという思いを新たにしました。



未来を担う人づくり!!

上野原青年会議所
上野原青年会議所

地域こども体験
地域こども体験



「明るい豊かな社会を実現するため、志を高く持って行動し地域活性に繋がるJC(青年会議所)運動を展開する」ことをスローガンに掲げる上野原青年会議所(鈴木丈文理事長)では、7月11日(土)に上野原市勤労青少年ホームにおいて「地域こども体験」事業を開催しました。当日は、地域の子ども達や保護者、青年会議所のメンバーなど、約40名が参加。子ども達が自ら体験・経験し、また親子のコミュニケーションを深めることを目的に、親子で和菓子作りに挑戦しました。

挑戦した和菓子は、「冷たいお菓子(アジサイ)」「水まんじゅう」「白玉ぜんざい」の3種類。出来上がった和菓子にはそれぞれ値段と和菓子の名前が付けられ、家族ごとに記念撮影を行いました。最後に自分たちで作った和菓子を食べたり、感想を発表したり互いに交流を深め合っていました。

上野原青年会議所では、今回の「地域こども体験」事業に引き続き、今後も「未来を担う人づくり」事業に取り組んでいく予定です。

探究力・解決力の育成と向上、地域の活性化・社会貢献を目指して!!

都留高校 体験型課題研究

都留高等学校(志村憲一校長)では、今年度より1・2年次生を対象とした『体験型課題研究』に取り組んでいます。自ら設定したテーマに対して、座学だけではなく、実際の体験を通して理解、研究を深めることにより、リサーチ力、企画力、実践力、探究力・解決力、並びにコミュニケーション力、プレゼン力の育成と向上を図るとともに、職業体験やボランティア活動を通して将来の社会貢献、地域活性化へのモチベーションを高め、その可能性を模索する契機とすることを目的としています。

2年次では4月より課題設定および企画をスタートし、夏休みを中心に体験・実践を行いました。課題テーマは、「清掃・農業ボランティア」「ボランティア演奏会」「SLP(Service Learning Program:生徒による出前授業)」「地域活性化(外国人観光客向けの商品開発・駅前商店街マップづくり)」など多岐にわたっています。特に、ボランティア活動やSLPを中心に、地域からの反響も大きく、近隣の学校や施設をはじめ、地域との交流が確実に深まっています。担当の先生によると、「生徒も以前と比べて自主的に行動するようになった。自ら考え、他と繋がり、実践する中でこそ、生徒は本来のポテンシャルを存分に発揮し、成長できるという実感と手応えを得ている。」とのことでした。

今後は、9月から1年次生を対象に実施し、3月にはプレゼンテーションで各自の取り組みについて発表する予定です。



SLP(楽しく体を動かそう)(大月東小学校)



ボランティア(箏曲演奏会)(高齢者介護施設)

仲間と一緒にコミュニケーションしながら本を読もう!! 上野原高校 チャレンジ!「アニメシオン」

上野原高等学校(田口尚弥校長)では図書委員会を中心に、「他の人の意見を聞き、自分とは違うものの見方や考え方を発見し、思考力や判断力、問題解決能力を身につける」ことを目的に、「読書へのアニメシオン」に取り組んでいます。今年で3年目を迎え、毎回多くの参加者が「読書へのアニメシオン」の魅力を満喫。参加者同士がコミュニケーションを通して、普段とは違う方法で読書に親しみ、読書を楽しみます。本年度の1回目は、8月1日(土)に上野原市立図書館会議室において、上野原市在住の中学生を対象に開催。今回は中学生、上野原高校の生徒、教職員等を合わせて約20名が参加しました。

「読書へのアニメシオン」では、参加者は事前に指定されたテキストを読み、作品の内容を把握します。そして、当日は進行役である「アニマドール」「アニマドール」により会が進められます。今回はまず、作品の一節が書かれたプリントが参加者にランダムに配布されます。参加者は配られた内容が全て作品通りになるように、前後の文脈を推理して、周りとは違って正しく並び替えます。最後にアニマドールはその順番が正しく並べられたかどうかを参加者に告げます。

次に、参加者全員が登場人物役とギャラリー役に分かれ、互いに質疑応答をします。登場人物の気持ちになって質問に答えますが、正解はありません。各自が文章の表現の意図や特色をとらえ、心情を豊かにし、思考力を育てます。また、じっくりと考えることにより内容を的確に解釈し、作品を様々な角度からとらえることができます。

参加した中学生からは、「最初は緊張していたけれど、高校生のリードで最後には自分の意見が言えるようになった。」「他校の人達と交流が深められて良かった。また参加したい。」との感想が聞かれました。次回は、10月3日(土)に大月市内の中学生を対象に実施されます。問い合わせ先は次のとおりです。

上野原高等学校 教養主任・図書委員会顧問 浅井君子

0554-62-4510



【 カラー版は、富士・東部教育事務所のHP からご覧いただけます。】

URL : <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/index.html> 】

地域の皆様のご支援ご協力を得ながら、実りある実践となるよう努めて参ります。各事業についてご意見ご要望がありましたら、地域教育支援スタッフまでご連絡ください。

連絡先 富士・東部教育事務所 地域教育支援スタッフ 0554-45-7841